



子ども食堂よしいだキッチン 夏まつり& 打ち上げ花火

つながりは切らさない

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった2020年。福島市吉井田地区にて開催してきた「子ども食堂よしいだキッチン」もこれまでの活動の在り方を再考する必要に迫られました。緊急事態宣言の発令、子ども達は休校措置。大人も子どもも外出がままならず、多くの不安を抱えながら過ごす日々。

そんな中、民生委員・児童委員を始めとした地域の方々や「子どもたちの為に地域として何ができるか」を話し合ったのが3月中旬。「居場所は中止した方がいいのか?」「感染のリスクは?」「子ども達に必要なことは…」たくさんの議論を経て、満場一致で出た答えは「今こそ、子どもたちの居場所が必要!」でした。

3月は小規模の子ども食堂を開催。4月以降はドライブスルー型でお弁当の配付。全国から応援の物資もたくさん届けて頂きました。休校期間中に久しぶりに会う子どもたち。屈託のない笑顔。「宿題が終わらないよ～」という何気ない会話。そして、お母さんたちとの会話を通して感じる、先行きの見えない不安感。

地域の私たちが今できることは「つながりを切らさない」ことでした。誰もが不安をめぐえない中、何かあったときに声を上げることが出来る人と人のつながり、小さなSOSをしっかり拾うことのできる地域のつながりを切らさないことが、今こそ本当に大切なことでした。

子どもたちの短い夏休みに、地域みんなでできること

新型コロナウイルスは、子どもたちが楽しみにしている夏休みにも大きな影響を及ぼしました。イベントも軒並み中止、感染リスクを考慮すると遠出も難しい…。

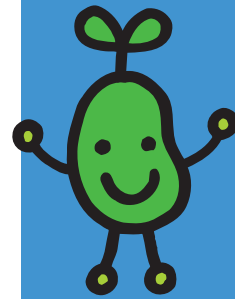
「短い夏休みに、最高の思い出を子どもたちに!」そんな合言葉からスタートした「よしいだキッチン夏祭り&打ち上げ花火」を8月20日に地域一丸となって開催いたしました。

高校、企業、行政、様々な団体、地域の方々など、たくさんの協力を得ること20団体以上。1時間ごとの入れ替え制の夏祭りでは、大人は全力でかき氷を作ったり、子どもたちは今年初めての浴衣姿で、高校生のボランティアのみんなと輪投げをしたり、スーパーボールすくいをしたりと、笑顔あふれる楽しい夏祭りになりました。

そしてクライマックスは夏休み最後に1分だけの打ち上げ花火。多くの人たちの想いをのせた70発の大きな打ち上げ花火。下を向くことが



ビーンズ通信 vol.101



●発行日/2020年(令和2年)9月10日

●発行元
特定非営利活動法人

ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F

TEL&FAX 024-563-6255

URL <http://www.beans-fukushima.or.jp/>

E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

多かった2020年、夏休み最後にみんなが上を向いた瞬間でした。

地域のつながりのプラットフォームとしての「子ども食堂よしいだキッチン」。これからも子ども達を真ん中に地域の皆さんと歩んでいきます。





子ども 放課後 居場所



「放課後児童クラブ みんなの家」

ひろーい校庭にブランコ、滑り台、鉄棒。「イチゴチョコが食べたい〜!」「せんせーい、これ作ったんだよー見てー!」。元気いっぱい声が聞こえるここは「放課後児童クラブ みんなの家」。福島市北沢又地区に今年4月できた、放課後をのびのびと過ごせる子どもたちの居場所です。外遊び、工作、お絵かき。どのように過ごすかは子どもたちが考えて決めます。どんな日常を送っているのか、覗いてきました。

「放課後児童クラブ みんなの家」は、家と学校の間、サードプレイ

ス。のびのびと安心して思いっきり遊べる場所として、北沢又幼稚園跡地にできました。現在は、小学1年生から～5年生の子どもたちが16名利用しており、学年を越えた関りがここにはあります。

「今日のおやつはどんな風に決めようか」。8月のある日、みーこ先生は小学1年生の子たちに尋ねました。すると、くじを引いて当たったおやつを食べることに。食べるおやつを選択、数を数える、くじ作りなど、全学年の「やってみたい」子がすべて進めていきました。

スタッフはあくまでもサポート役。上手くカタカナが書けないときに、そっとヒントを出します。「どのタイミングで介入するか、いつも考えて見守ってます」とみーこ先生は言います。

「子どもたちは『規則正しい』ルールが決まっている生活を学校で過ごしています。ここでは『自分で過ごし方を考える』時





「なの家」が開所しました!!

間を大切にしています。自分でやってみてほしいことを選択できる、選んでいいという感覚を養うことで、自分の好きなこと、やりたいことを知ることにつながり、ひいてはそれが自信につながると考えています。」とみーこ先生は話していました。

お絵かきが得意な子の描き方

を見て、真似して描いてみる。ペットボトルのキャップの蓋を使って、作ったおもちゃの強度を上げる。子どもたちは、お互いに好きなこと、やりたいことをすることで、いきいきと過ごし、関わり合いの中で、自分の得意・不得意を知っていきます。自分の得意なこと、誰かが得意なこと、それは一人で過ごす時間では気付けない

宝物です。

元気いっぱい子どもたち、ぐっちゃんぐっちゃん日々ですが、真っ赤な顔で走る姿に元気がもらえます。一度、ぜひ遊びに来てください。



福島県内のひきこもり支援の充実をめざして

ビーンズふくしまは、平成26年度より福島県ひきこもり支援センターを受託し、全年齢・県内全域を対象にご相談をお受けしています。

全国には、100万人を超える方々がひきこもり状態にあるという調査結果が発表されています。ご本人とご家族は、どうしたらいいかわからず、大きな不安を抱えていることが多いです。こういった中で、ご家族だけで「ひきこもり状態」を解決するのは難しいのが現状です。

ひきこもりの解決には、少しでも早く、ご本人やご家族が相談機関に繋がることが、重要であり、それぞれの地域にひきこもりの相談窓口や支援機関等の体制を整える

ことが急務です。

そこで大切なことは、相談窓口の方や支援機関の方たちが、ご本人やご家族がどのような気持ちで今いるのかを理解し、その気持ちを受けとめた上で、今出来ることを一緒に考えていくというスタンスだと考えています。

当センターでは、福島県のひきこもり相談業務全体のスキルアップを目的として、毎年支援者研修を開催し、ひきこもりに対する理解や「ご本人やご家族の視点に立った相談姿勢」などについての研修を行っています。

昨年度は、当事者である若者から、そのリアルな体験談を伺い、今年度は先日9月1日に、ひきこもっているご本人にとって「安心できる環境」が必要であることを感情の発達や脳のしくみから学ぶ機会を持ちました。

今後も、各地域でのひきこもり支援体制の充実をめざしていきたいと思っております。



●ホームページにひきこもりに関する情報を掲載しておりますので、どうぞご覧ください。
<https://fhc.beans-fukushima.or.jp/>

ビーンズ オンライン チャレンジ

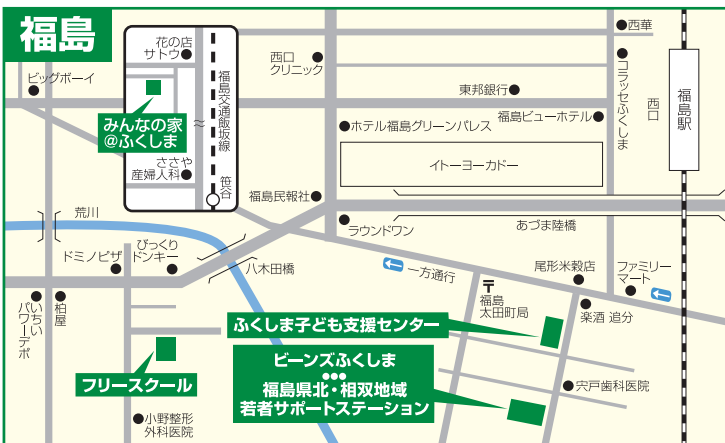
若者の居場所 ユースプレイスでの取り組み

ユースプレイスは、若者が安心して自分らしく過ごせる居場所。「コロナ自粛」で、直接会うことが難しかった4月から、利用者の方々の「会いたい気持ち」を叶える試みを始めました。

オンライン上で顔を見ながら対話できるツール「zoom」を用いながら、女子会、ボードゲーム、折り紙講座など様々なイベントを実施し、多い時には6名ほど参加しています。

画面上の会話になるため、話す機会を気に掛ける必要はありますが、「zoom」の導入は好評です。利用者の方からは、「会話は大変だけど、体調がよくないときでも参加しやすいので、オンラインは続けてほしい」という声もあります。

チャレンジしたことで、居場所への新しい参加方法が発見できました。これからも利用者の方々にとってベストな方法を見つけていきます。



●ビーンズふくしまのホームページ はこちらへアクセス <http://www.beans-fukushima.or.jp/>